

教育長	教育部長	課長	指導主事	課長補佐	主査	係	保存区分
							永・10 5・1

令和5年度第1回大口町総合教育会議

令和6年 3月27日

午後 1時58分 開 議

大口町役場3階 第5委員会室

1 開 会

2 町長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) 給食センターについて

5 その他

6 閉 会

構成員

町 長 鈴木 雅 博

教育長職務代理者 鈴木 由布子

教 育 委 員 舟 橋 由 治

教 育 長 長 屋 孝 成

教 育 委 員 水 谷 恵 子

教 育 委 員 丹 羽 力 也

町長部局

総 務 部 長 佐 藤 幹 広

政策推進課長 岩 田 雄 治

教育委員会

生涯教育部長 松 井 宏 之

学校教育課長 三 輪 典 幸

学校給食センター
所 長

丹 羽 清 人

図 書 館 長 鈴 木 加代子

(午後 1時58分)

1. 開会

○岩田政策推進課長 それでは、定刻より若干早いですけれども、皆さんおそろいですので、会議を始めたいと思います。

始める前に、まずお手元の資料の確認をお願いしたいと思います。1枚目に次第がありまして、2枚目出席者名簿、それから1点留めの資料が1部と、あとその後に3枚資料がついていくかと思っています。

よろしいでしょうか。

それでは、ただいまから令和5年度第1回大口町総合教育会議を開催いたします。

進行を務めさせていただきます私、政策推進課長の岩田といいます。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定によりまして、原則公開となっております。また、会議の内容につきましては、会議終了後、資料及び会議録とともに町ホームページにて公開しますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日傍聴者はございません。

2. 町長挨拶

○岩田政策推進課長 では、初めにこの会議の主宰者である鈴木町長より挨拶を申し上げます。

○鈴木町長 まずもって、皆さん、こんにちは。今日大変出にくい時間というのか、こんないい天気の日で室内で会議というのは本当に申し訳ないなと思いながら皆さんにお願いをしたわけですが、令和5年度第1回大口町総合教育会議ということでお集まりをいただきました。

ざっくばらんに申しまして、今後教育行政の中で何をやっていかなきゃならないかという方向性を見いだす一つの切り口だというふうにお考えをいただければありがたいのかなというのと、もう一つは、やっぱりいろんなものが老朽化したり、いろんなことをやっていかなければならないという変革の時期でもありますんで、そういう意味では、そういうものをどうこれから対処していくのかということも皆さんに御検討をいただきたいというふうに思っておる次第であります。

いろいろと課題はたくさんあると思いますが、今日は給食センターのお話というような話で、その辺りに関しまして、長年使ってまいりました給食センター、いろんなところからもいろんな意味で古いんじゃないかというようなこともあります。ただ、学校給食に関して言いますと、やっぱり子どもたちが喜んで食べてくれるものを何も取り上げる必要もなく、やっぱり今まで

どおり作ってあげたいなあというのが我々の気持ちかなあというふうに思っておる次第でありますので、ぜひ皆さん方にも御意見をいただきたいというふうに心から思っておる次第でございます。

委員の皆さん方におかれましては、引き続き本町の教育のためにお力添えを賜り、いろんな改革を皆さんと共にやれるような、そんな組織をつくってまいりたいというふうに思っておりますので、今日も忌憚のない御意見いただきますことを心からお願いを申し上げて、御挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

3. 教育長挨拶

○岩田政策推進課長 続きまして、教育委員会を代表して、長屋教育長から挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。

○長屋教育長 改めまして、こんにちは。

今まで総合教育会議ではソフト面での話が中心でありましたが、今日はハード面での話合いということになりまして、思い起こしますと前の森町長のときに一度図書館建設に向けて激論を闘わせたという経験があります。ちょうど10年ぐらい前になるのかな。

○鈴木町長 俺が11年なんで。

○長屋教育長 ほんなら12年ぐらい。

○鈴木町長 12年ぐらい前じゃないの。

○長屋教育長 そうです。

そのときは、町長と初めてこういうハード面での話合いをしたわけですが、皆さんは何を考えておるといのが町長の思いでありまして、今……。

○鈴木町長 違う違う。言っておるんじゃないと思われるでやめてよ、本当に。

○長屋教育長 箱物を造る時代じゃないというのが強く印象に残っております。

今日は給食センターということですが、箱物は箱物でも本当に物すごく必要な箱物でありまして、この給食センター36年か40年近くたつわけですがけれども、すごい働きをして子どもたちの健康、安全面で活躍をしてくれたと。ところが、本当に老朽化も激しく、年間43万食ほどやるわけですがけれども、それが毎日、本当にああうまくいくかな、どうかなということで、どきどきしながら進めてきたというのが現状でありまして、ここでこういう話合いができるということは本当に意義があるなということを思っております。当時の先輩諸氏の30年先40年先を見通してその施設を造られ、そしてその後、日本各地から多くの視察者が当時あったということを知っております。

本日も施設の面から子どもたちの安全・安心を保障するというところで、また30年先40年先を

見通して誇れるような施設が、みんなの知恵を出し合いできればいいなあというふうに思っておりますので、様々な角度から御意見を聞かせられればいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 協議事項

○岩田政策推進課長 それでは、協議事項に入ります。

議長は、大口町総合教育会議運営規程第3条に会議の議事進行は町長が行うとなっておりますので、町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○鈴木町長 それでは、ここから議長を務めさせていただきます。

議長と申しましても、発言はお許しをいただきたいというふうに思っておる次第ですので、その点だけは御理解のほどお願いを申し上げます。

今日の協議事項でありますけれども、給食センターについてということであります。

早速ですが、説明のほうを給食センター所長からさせますので、よろしくお願いいたします。

丹羽君。

○丹羽学校給食センター所長 いつもお世話になっております。

資料を御覧いただきたいと思います。

学校給食センター施設整備についてを御覧いただきたいと思います。

1番の既存施設の現状ということで、所在地につきましては、下小口七丁目192番地でございます。

建築年につきましては、昭和47年に給食センターが設置されたのですが、それを改築いたしまして、昭和63年9月に改築をしております。

経過年数につきましては、約36年を経過しております。

敷地面積につきましては3,514平米、建築面積は1,257平米、延べ床面積については1,436平米となっております。

構造につきましては、鉄骨造一部2階建てでございます。

対象学校につきましては、小学校3校ですね。北、西、南、大口中学校で合計4校の給食を毎日作っております。

給食数につきましては、学校の先生も含めまして約2,400食を1日作っております。

調理能力といたしましては、4,000食ほどの調理能力を持っております。

現行基準への適合性ということで、基準があるわけなんですけど、汚染、非汚染区域の区分分けができていないであるとか、空調設備が調理場・洗浄室にないため衛生基準を満たしていな

いということで、衛生基準は温度が25度、あと湿度が85%を上回らないことということになっておりますが、現状は夏場ですとか、基準を上回る日があります。

以上のほかに、食物アレルギーに対応できていないことや施設、調理機器の修繕費用がかかるようになりまして、新たに施設整備を行うために、令和6年度に施設整備基本計画を策定したいと思っております。

2番目に、施設基本計画の策定でございますが、先ほど申し上げましたように計画の概要といたしましては、建設から36年が経過いたしまして、設備の老朽化が進み、修繕に多額の費用がかかるようになりました。早急に抜本的な対策を講ずる必要があります。

計画につきましては、新たな給食センター整備に係る方針や方向性、建設用地、必要な機能、設備、概算事業費、事業スケジュール等について、具体的な整備を進めるための考え方をまとめたいと思っております。

学校給食センターの整備に関しましては、学校給食衛生管理基準や大量調理施設衛生管理マニュアル等に準拠した衛生管理ができる施設や食物アレルギーに対応できる専用調理室を整備することと、省エネや環境に配慮した施設を目指します。

また、併設施設などの整備や防災機能について、庁内で検討し、計画に盛り込んでいきたいと考えております。

(2)学校給食センターの整備の基本方針ということで、まだ決まってはおりませんが、5つ上げさせていただいております。

(ア)安全・安心な給食の提供ということで、学校給食衛生管理基準等に適合したHACCP対応のフルドライシステムの導入、汚染作業区域・非汚染作業区域の明確な区分等を行いまして衛生管理の徹底を図ります。

(イ)食育の推進。学校給食を活用した食育への取組を推進するため、施設や調理場の見学、食の研修等に対応できる見学スペースや会議室、栄養指導室等を整備します。

(ウ)食物アレルギーへの対応。安全に食物アレルギー対応食を調理できるよう専用の調理室を整備いたします。

(エ)環境への配慮。地球環境に配慮し、厨房機器や照明設備等省エネルギー化を図るとともに、廃棄物の原料と再資源化への取組等SDGsを意識した環境負荷低減に配慮します。

(オ)経済性・効率性に配慮した整備・運営。施設の整備・運営については、経済性・効率性を配慮し、可能な限り施設整備費や維持管理費等の運営費の縮減を図ります。

(3)の検討する事項でございますが、(ア)災害対応機能といたしまして、災害発生時でも3日間程度稼働ができ、食事の提供ができることを検討いたします。

2つ目、災害時に炊き出しができる施設を目指します。

(イ) 賑わいの創出ということで、飲食店の運営にチャレンジできる飲食スペースを中心に、キッチンカー、物販を含めた集客等自由な発想でにぎわいを創出するスペースの整備を検討いたします。

(ウ) 安全安心な食の提供ということで、学校給食と同じメニューを提供し、学校給食の安全・安心を知ってもらい、高校生や大学生などが食べていただいて思い出を思い出していただいたり、親子で喫食することで共通した話題の提供ができるような食堂整備を検討いたします。

(エ) 高齢者への食の提供ということで、独居や高齢者世帯の高齢者が気軽に安価で栄養の高い食事ができる食堂を検討いたします。

(オ) その他、その他の機能についても今後検討をしてまいります。

(3) 建設候補地(案)でございますが、町民会館第1駐車場、役場前線の南側の大きいほうの駐車場を考えております。現在は借地でございます。

続きまして、資料のほうを御覧いただきたいと思います。

伊達市の学校給食センターの整備のほうですが、伊達市学校給食センター整備運営事業では、学校給食センターの機能に加えまして、市民の健康増進及び食材PRに資する事業者による自主事業を展開するために施設・運営する事業であります。

民間事業の創意工夫によりまして、食育レストランでは、給食センターの2階で市民の健康増進と伊達産食材のPR、正しい食育の知識を育むことを目的といたしまして軽食を提供しており、その日の学校で提供されている給食メニューを食べることができるそうです。給食メニューについては、1食550円でうち330円を市に支払っているそうで、毎日10食程度の提供数で、牛乳は提供されず量で調整をしているそうです。その他、食育ランチ、生姜焼き定食、カレー等を提供しておりまして、1日30食程度ほどの提供をしているそうです。

災害時につきましては、1日当たり最大9,900食の炊き出しをして3日間は可能とする施設を導入して、もしものときの安心を確保しているそうです。

この事業につきましては、PFI事業で事業が営まれておりまして、BTO方式、Build Transfer and Operate方式ということで、民間事業が施設を建設いたしまして、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理及び運営を行う方法になります。

続きまして、裏面のほうを御覧いただきたいと思います。

こちらは、愛媛県の西条市の基本計画の概要版になります。基本計画のイメージとして出させていただきました。

西条市は人口約10万人、5万世帯の市でございますが、左上の学校給食施設の整備目標といたしましては、目標1. 安全で安心な学校給食の提供が可能な施設整備、目標2といたしまして、多彩なメニューやおいしい給食ができる施設、目標3といたしまして、食育や地産地消な

ど学習面においても推進できる施設体制の構築、目標 4. 適正な食物アレルギー対応、目標 5. 将来にわたり安定かつ効率的な給食施設の体制づくりとしております。

第 2 章の施設集約の方向性につきましては、この市は現在 27 施設があるわけなんです、15 年後には 2 つのセンターに集約する方向性となっております。本町は老朽化による建て替えのため、変更は特にございません。

右上の施設整備計画を御覧いただきたいと思います。

市内 2 か所給食センターを新設する予定となっております、下の西部給食センターにつきましては、大口町と同規模の 3,000 食でございますが、概算事業費は約 19 億 5,000 万円となっております。

続きまして、事業スケジュール（案）といたしましては、2 つの施設ともに基本設計、詳細設計含めて 1 年、建設 2 年で約 3 年程度かかるスケジュールとなっております。

第 4 章の導入機能の検討につきまして、5 つありますが説明を省略させていただきます。

第 5 章の事業手法の検討でございますが、4 つございまして、従来方法、公共が主体となって資金調達・建設を行い、建設後、維持管理・運営を行う方法となります。本町は、今ですとこれに当たる方法です。

② DB+O 方式。公共が資金調達をいたしまして、設計と施工を一括し民間事業に発注する方法で、運営事務については、別契約で、建築後民間事業者に包括的に業務を委託することも可能であります。

③ がリース方式という形でございます。

④ が PFI 方式で、PFI 法に基づいた事業方式ございまして、補助金を除いた事業当初の資金調達を含めて、建設から維持管理、運営全てを一括して民間事業者が行う方式ございまして、SPC、特定目的会社を設立し、建築期間と運営を 15 年間、運営維持管理を行うモデルございまして、近隣では一宮市、江南市の大規模な給食センターで導入をされております。

以上で資料の説明を終わります。御意見、御要望のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

○鈴木町長 ただいま説明をさせていただきましたが、委員の皆さんから忌憚のない御意見や御質問をいただければと思っております。

いかがでしょうか。

というのは、ちょっとぶっちゃけ話しますと、何をどうなっておるかさっぱり分からないというのが現状じゃないのかなというふうに思うんですけど、水谷さん、分かります。言っておるこの内容って。どうしてこういう話になったかということ、分かります。

○水谷教育委員 老朽化に伴い……。

○鈴木町長 そうなんですけど、具体的なことを言いますと、こういうこと僕が言っているけど

うかは分かりませんが、実は給食センターの件というのは、もう四、五年前からずっといろんな問題が出ていまして、老朽化しているがゆえにいろんなものがどんどん破損もしくは故障したりとか、いろんなことが起きていくという中で、将来どうするんだという形がいまだに僕の頭の中でも見えてきていなかったのも現状でして、その当時私が描いていた夢というのは、子どもたちが給食センターで作る給食をみんな喜んで食べてくれるというのがある。それと、50年60年の歴史の中で、大口町で給食センターで作ったものを食べてきたというのは、私も含めみんな一緒だと思うんですけど、そういうものを食べてきたその思い出があるということから考えると、何かいい方法がないのかなあということを想定してずっと考えてまいりました。

それで、このきっかけになった理由というのは、いわゆる珠洲市というか、能登半島の地震のときに、さあ、食をどうしたらいいんだろうというところであります。そのとき珠洲市の市長と話をしたときに、町長3日間ですよ、3日間食いつながなきゃ何ともならんのですよというようなことを言われまして、そういうのをいろいろと総合して考えたときに出た答えが、私的には給食センターを新しく造って、そこでできたものを町民の皆さんにも食べられるスペースをつくっていききたいというのがまず1点。

それからもう一つは、独居老人の皆さん方が、今は弁当とかいろんなものを社会福祉協議会とか、いろんなところから取って食べていただいたりとか、いろんなことをやっているというところから、何とかそこに来ていただいて1食でも食べてもらえれば、その人たちの外出支援にもなるし、それから子どもたちが食べる栄養価の高いものを食べられるんじゃないかというのが2点目。

そして3点目は、もし災害があったときに3日間だけ持ちこたえられるだけの、そういうものを作るスペースを持っていないと、これはもうどうしようもないだろうと。今大口町の話が出てまいりましたが、1日4,000食が作れるというものの、機材のいろんなものからいくと確実に地震があれば壊れてしまう。使えなくなるということになると、耐震にも強いいろんなものを考えないといかんだろうというのがまず4点目で出てきます。

次に、5点目のお話として出てくるのは、にぎわいじゃなくていわゆる何だっけ、さっき。応援事業のような形で、例えば学校給食だけでは、そこに提供しているだけでは駄目でしょうと。例えばその日、たまたまラーメンが食いたい人がおったり、串カツが食いたいなあと思う人も中にはおるでしょうし、そういういろんなことから考えると、将来出店をしたいなあという人たちが実験的にそこで自分の店を出して、そして好きなものを作るスペースをつくってあげて、いわゆる将来の起業家たちの育成をできるような、そういう練習する場も提供してあげると今後いいんじゃないか。そこにたまたま、例えば舟橋委員がそこに来て学校給食を取っ

た。でもこの量じゃ俺ちょっと少ないで、そこへ行ってラーメン食うか。そこでうどんがあればうどん食うか。例えば、串カツがありゃあ串カツ食うかと自分で買ってきて食べてもらうことによって、自分の裁量を見てくれるところがあればいいんじゃないのか。もっと言うとその前に、先ほど丹羽センター長から言いましたように、キッチンカーとかそんなもんを出しておいて、欲しい人はそこでゆっくりコーヒー飲むのか何か食べるのかというようなところがあれば、これから新しいにぎわい事業の創出というのにもなっていくんじゃないのかなあというのがあります。

そしてもう一つは、一番問題なのは今の独居老人たちがここまで出てこれられない、災害があったときにここまで出てこれなくなったらどうするかということになると、こちらから配送をかけなきゃいかんというところがあります。その配送をかける中で一番問題なのは、いわゆる御桜乃里や、それから一期一会だとかそういうところの食材は、ほとんど今そこの中では作っているというものの、耐震とかいろんなものから考えますと、絶対に多分その中で食事を作ることができなくなるということが考えられる。そうすると、施設を利用してみえる皆さん方が食を失うことになる。食べることができなくなるということが起こらないようにするためには、その分までこちらでできる耐震強化を施した建物を造って、要するに町民の皆さん方の食の安全を確保する必要があるだろう。人数的には、僕の考え、今の試算でいくと約1万人ぐらいの食ができればいいのかなあ。1食1万人分ぐらいの食を提供できればいいのかなあということを考えています。

これは、夜なら1万食で済みますけれども、現実には大口町は人口2万4,000人の町で、昼間の流入人口というのが2万7,000人あります。ということは、2万4,000人の人口で1万食では多いんじゃないかという話になるかもしれませんが、昼間もし事故、地震があった場合どうなるかという、あと2万7,000人がこの大口町の中にいるということをお忘れいただきたい。いわゆる各会社で働いている皆さん方が路頭に迷うというようなことになってくると困るということもあって、できれば1万食ぐらいのものを何とかできる、3日間だけ持ちこたえられるものを造っておかなきゃ駄目なんじゃないのか。もし、そこで大口町の人たちが必要がないということであれば、近隣の市町にも提供できるようなものを造っていかないと、今1市だけとか1町だけで行政は成り立ちませんし、隣と隣町のいろんなものも考えないと、皆さん御存じのとおり、能登半島の中のいろんな市町がお互いに協力し合ってやっている姿を見ると、できるものはできる、できないものはできないということにもなってくるかもしれませんが、相互協力がなくしてなし得ないということになりますんで、そこらで提供できるものをやっぱり造る必要があるだろうということを考えて、今回この間は俺が一生懸命考えたでと思ったら、どこから引っ張り出てきたか知らんですけど、伊達市の話が急にこんなようなことやっている

ところがありますと言われて、僕も伊達市には行っていません、まだ。

見てきていませんから分かりませんが、そういう話で一応資料を取り寄せて、丹羽センター長や松井部長たちにもちょっと見せたんですが、同じようなことをやっている。全くこれと同じことをやるつもりはございませんけれども、この伊達市が造ったものにもう少し色をつけていろんなものを造りながら、そういう意味での体制をつくれば、ただ給食センターだけというわけではなく町民の触れ合いの場所にもなりますし、また人が集まる場所、そしてまた食というものに対する考え方、そして我々が今まで町民が食べてきたいわゆる学校給食というものに親しみや、それから思い出を入れられるのではないのかなあ。

そしてまた逆に言うと、大口町の職員なんかは、今ここでは給食とか、それから学食じゃなくて職員食堂なんていうのもございませんので、みんなばらばらであっちこっち食事を食べに行っています。健康管理の上でもこういうところで食べさせて、働いてもらう場をつくっていく必要があるのではないのかなあというようなことを考えて、今回は皆さん方にこの給食センターの在り方というものを御検討いただきたいということで提出をさせていただいたのがこの会の真実であります。

ぜひそういう意味では、皆さん方に私の意を酌んでいただいて、どんなものがいいかということをはひとつ皆さんと考えてまいりたい。そして、一つの方向性、方針を出していかないことにはいかんだろうということがありますので、ぜひ様々なお立場から御意見いただきますことを心からお願いを申し上げる次第であります。

いろんな面に関しまして、答えに関しましては、私のほうからもさせていただくようにしますんで、ぜひ御意見をいただきたい。こういうのはどうだということを言っていただければ、お答えはしてまいりますんで、正直なことを言いまして、丹羽センター長に聞いても全くそういう意味での、これを読んだだけということで分かりませんので、夢のお話というのもまた夢になるかもしれませんが、ぜひ御意見をお聞かせ願えればと思っておる次第です。ちょっと余分なことを申し上げました。

これが本当に僕の夢の話なんで、その夢の話にちょっと乗っかっていただくといいのかなと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

何か御意見ございますか。

水谷さん、御意見ありますか。今の意見聞いて。

○水谷教育委員 私は、やはり老朽化で整備に費用がかかるとか、そういう上辺的なことしか理解できていませんでした。

それで、給食センターを建て直す計画があるということで、私も調べましたら、やはり今新しく造られているのはここにあるように、災害にも役立つとか、あとアレルギー除去の給食が

作れるところとかというようなことが書いてあったんですけど、調べたら。災害と食育を学べる施設ということ、ここにも書いてあるんですけど、見学したりとかそういうことが書いてあったので、新しい施設はそういうことを考えた、皆さんにちょっと開かれた給食センターになるといいなというふうに思っておりました。今町長が話されたみたいに、町長の夢がすごい広がっていて、どれもいいなと思うものばかりでした。

先日も私、少しお話をさせていただいたんですけど、今オーガニック給食というのがよいというところで取り入れている市町があるんですけど、御存じでしょうか。

オーガニック給食というのは、化学肥料、農薬を使わないから体にいいというのがオーガニック食材と言われているんですが、お米もそれに当たったりとかします。農薬とか化学肥料を使わないお米というのを取り入れているところもあったりして、大口はお米を作っている農家さんがたくさんあるので、そういうところの方たちが、オーガニック食材を作るのにはちょっとお金が要るんですけど、そういうところと給食、そういう食材、お米を給食で使うということで契約してもらえれば地産地消につながって、安定した農業収益が見込める。農業、農家さんが元気になるということにもつながるかなと思ったりとか。オーガニック給食が大口では食べられるということになれば、それが目的の移住者の方が大口町に見えたりとか、子どもさんが見える家庭が引っ越ししていращやったりとか、そういう大口町のPRにもつながったり、そういう地域の特色にもなるんじゃないかなあということもちょっと思ったりしました。

今日はハード面のことをお話しするのかしらと思っていたんですが、町長がそういうこと、いろいろ夢のことをおっしゃってくださったので、このオーガニック給食というのもその給食センターを新しくすることと絡めて、そういうことも進めていっていただけるといいかなあとも思ったりもしました。以上です。

○鈴木町長 ありがとうございます。

まずちょっと答弁をお返ししますと、大口町今ユニバーサルファームという一つの公的農業法人を設立しております。

今言われるお米を作ってみえる方という言い方をされたんですが、現実には今、大口町のお米作りをしてみえる農家さんというのがだんだん減りつつあって、いわゆるオペレーターの皆さんが作ってみえるということになりますんで、米に関しても野菜に関しましても、野菜はやっていませんけど、野菜なんかは自分のところで作れるかなというのがあるんで、生産ということに関しては、今、もしそういう話の実現できるようであれば、ユニバーサルファームやオペレーターの皆さんにもお願いし、また個人で作りたい人があれば個人で作ってもらったりするというのも、自給自足の中ではちょうど一番いいのかなあというのは感じています。

ただ問題は、そのオーガニック給食を作ったとして、よそのまちからこっちに引っ越してこ

られないんですよ。ということは、引っ越し先がないんです。そこは今度は農地法の関係だとか、それからいろんなものの関係の中で、なかなか新しい人がこっちに来ていただいて、今あるマンションや何かに住んでいることは可能なんです、農家分家と言われる方法で今の農地を宅地に変える方法がありますけれども、それは農業を営んでいる人という前提がありますんで、そういう意味ではなかなかできない。現実には、大口町で1年で大体10軒ぐらいの農家分家という名目でうちは造ってみえる方がお見えになりますけど、現実にはそれぐらいしかできないということなんで、なかなかこっちへ引っ越してきていただけるということを期待することができないという部分があります。

ただ問題は、今先ほど申し上げたように、要するに企業に就職をして企業市民として2万7,000人の皆さんがこっちに来ているということを考えると、その御家族やお兄さんたちがそういうものを求められるのであれば、それはそれなりで今は意見としてお聞きするので、できないというのは今後の判断ですけど、いわゆるそういうものをきちっとやっていけば何とかなるのかもしれないということはお答えはさせていただけるかなあというふうに思っています。

ですから、もう少しいろんな意見をいただいて、こういうものというものをもっともっと具体的に皆さんと話し合っていかなきゃならないのかなあというのを思っておるのが現実ですんで、ぜひ御理解のほどよろしくをお願いをしたいということでもあります。

さて、鈴木さん、何かありますか。

○鈴木教育長職務代理者 何かすごい想像するとすてきなと思って聞いていたんですけど、その中、でも私は最初に資料をいただいた時点では、にぎわいの創出というところはあんまりちょっと違うんじゃないかなあと思って家では読んでいたんですね。ですが、町長言われたように、これから起業を始めていくという人のための支援というか、その場なら、今のキッチンカーとか、最近全然私もう夜出られないというか、そういうところ来ると飲みたくなっちゃうんで、来るのも帰れなくなるしとかというのがあって、キッチンカーににぎわい横丁というのに参加したことはないんですけど、その流れがそこに行くんだったらちょっとあんまり賛成じゃないかなあというふうに思って聞いていたんですけど、これから何かそうやって飲食業とか起業をやっていきたい人のための設備だったら、それはすてきなかなあ。

○鈴木町長 ありがとうございます。

逆に言うと、今大口町の中で飲食店という名のつくところって何軒あるかという話なんです。2万4,000人の人口と昼間人口を2万7,000人足すと5万1,000人の人が大口町の中に渦巻いているわけですよ。ところが、飯食うところどこにあるのと言ったら、どこにもほとんどないという状態が今続いています。

それをいろいろな人たちから言われるのは、本当どこかできないのかということを一っぱい言われるんですね。ですから、先ほど言っている建物の中で機材やいろんなものを幾つかそろえて、お金がないから起業したくてもできないという人たちのために、そういう訓練やいろんなものを兼ね備えた形で、もちろん具材やいろんなものはその人たちが買ってもらわなきゃ駄目なんでしょうけど、そこで提供できるもの、例えばラーメンにしてもカレーにしても何でもええやないですか。そういうものが提供できるのであれば、それはそれでいいだろう。

それで、こういうニーズがあるんだということを覚えてくれて、また外に出て起業してくれるのもいいだろう。

先ほど言っているキッチンカーの話は、じゃあラーメンとうどんだけでいいのかということになると、ピザ食いたい人もいるし、それから先ほどの串カツじゃないですけど、串カツ食いたい人もいるしいろんな人が見えるんで、どれだけの人たちがここに来てくれるか分かりませんけれども、そういう人たちのためには、やはりいろんな種類を置いて、そこに人が集まる場所をもっとつくりないと町というのは発展していかないというのを最近つくづく自分でも思っています。

ですから、一キッチンカーとかそういうものにこだわるわけじゃなくて、何でもソフトクリームでもいいじゃないですか。たこ焼きでもいいじゃないですか。露店でも何でもいいんで、そこに人が集まる場所。ここに来ればいろんなものを食べられるという地域って大口町の中にありますか。ないんですよ。せいぜい本当にドン・キホーテのフードコートぐらいしかないような状態では、町民として食と文化といろんなものから考えるとできないということがあるんで、それを役所が創設するものの中で、やっぱりそういう経験やいろんなものを出してあげることのほうがいいんじゃないのかなあ。

彼らが一番びっくりしているのは、この前のグラウンド造りましたね。今グラウンドに来る子どもたちって、どれだけの子どもたちが遊んでおるのというぐらい遊んでくれるんですよ。でも、何かあります。何にもないんです。バスケのコートが2面と、それからあとラグビーのボールが2つあるだけで、みんなそれぞれで遊んでくれる。だから来る人たちのニーズというのは、我々鈴木雅博個人、丹羽力也個人、舟橋由治個人ではなく、やっぱりみんなそれぞれいろんな思いを持ってくる人たちが多いで、いろんなものを一般的にいう否定していかないと本来はごちゃごちゃになってしまうだろうと思われるところだけれども、そうじゃなくて、受け入れられるものは受け入れられるだけ受け入れてあげて、そこで排除しなきゃいかんものは排除しなきゃいかんという部分で考えていかなきゃいかんのじゃないのかなと。それこそ串カツなんか、どこかの誰かがいつもこうやってキッチンカーでやっておるらしいですけど、その人お金あるかどうかは知りませんが、即日完売ですからね。そういうこともあり得るわけ

ですよ。

ですから、そこがどうなのかということも出てくるわけです。それを見ていた人が、俺も串カツ屋やろうかしらという意欲が出てくれば、これは一つのもうけじゃないですか。その人たちがやってくれるということであれば。そして、またそこに集まってくる。また、もっと言うなら、昔のどこかにあったな、串カツ街道みたいなところ、名古屋の市内にあったやろう。どこやったかな、何やったっけ。串カツが、が一っと並んでおるお店、ありましたよね、昔。

○長屋教育長 知らないです。

○鈴木町長 名古屋駅の近くに串カツ屋が10軒か20軒、こうやって軒を並べていて、ここの串カツがええ、あそこの串カツがええと食べているところがあったんです。今でもあると思いますけど。そういう店でも、それができればそれでいいんじゃないかと。それがにぎわいを創出するというところにもつながっていくし、ああ、あそこ行きゃあ串カツが食えるというようなことにもなりかねないということを考えると、何となくそういうふうでもおかしくないんじゃないのかな。それは、これからずっと続くかどうかは分かりません。でも、できればこういうものを造るのであれば、そういうところを少しずつ渡してあげてやればいいんじゃないのかなという。何分にも、大石町の中で食なんて文化は全くないというふうに僕は思っていますんで、その食の文化というのをやっぱりつくっていく必要性はあるんじゃないのかな。

例えばお千代保稲荷だ。お千代保稲荷、そうじゃない。串カツ屋、ぎょうさんあるじゃないですか。どこの串カツがいい、あそこの串カツがいいという話になってくる。それはそれで、僕は一つの文化だというふうには思っていますんで、そういうものがどこでどんなふうに火を噴くか分からない。キッチンカーでやっているクレープ屋さんなんか、時間かかるらしいですわ。でも、行列ができてずうっと待っている人たちがいる。それはそれで、やっぱり一つのいい見本じゃないかね。だからクレープ屋やりたいなという人たちも出てきてもおかしくないのかな。それがキッチンカーでやるのか、その店を持つのか、それはちょっと別として、ただにぎわいがあれば、そこでクレープをやってもいいとなれば、僕はそれはそれでいいんじゃないかなという、僕の個人の考え方ですよ、あくまでも思っ

どうぞ。

○鈴木町教育長職務代理者 すみません、いいですか。ごめんなさい。

すごいそれすてきで、でももう一つ、にぎわいのところで思ったのは、そこで何か衛生面とか食中毒だとか、そういったような問題が起こったときに、全然もちろん別の施設ではあるんだけど、給食の部分と。そういったところで関連づけて何か心配なことが起きたりとかしないかなというのが私はちょっと心配。

○鈴木町長 それがちょっとあって、ここの中には書いていませんけど、建物を一緒にできない

んですよ。少しでも空けんならんのですよ。

○鈴木教育長職務代理者　じゃあいいじゃないですけど、これで見ると、全部その一帯の施設だ
という思いがあったので。

○鈴木町長　と思うでしょう。ところが、作るところと、それから作る場所と、こっちで店舗で
やるほうは別ですよ。ただ、給食を作っているところと、それから給食を出すほうのところっ
て、1メートルとか1メートル50とか何か距離を空けないと衛生法の許可は下りないんですよ
ね。建築許可もそうでしょうけど。そこはまだ詳しくは調べていません。これを造るというこ
とに決まったわけじゃないんで。

○鈴木教育長職務代理者　施設というよりも、複合施設じゃないんだけど、1個のものでそ
れを全部考えているってわけではない。

○鈴木町長　うん、そうそう。それは、ここで分けなきゃいかんという法律があるはずなんで、
そこのところだけはきちっとやらないといかんかなという。

○鈴木教育長職務代理者　あと、全然予算のことは分からないんですけども、どーんとその学
校給食センターで予算がこれだけつきましたよ。じゃあちょっとこれだけ予算がかかるから、
ほかのソフト面がちょっと今年難しいねとか、そういうような状況が起きてくると嫌だなとか
思ったり。

どこまでがどういう、全然その具体的なことが分からないですけど、給食センターだから学
校教育課の予算だからといって、ほかがちょっと削られるとそれはそれで困るかなということ
を感じました。

○鈴木町長　何とかなるんじゃないです。

○鈴木教育長職務代理者　まだまだソフト面でいっぱい人を増やしてほしいとかいうことを、
毎回やっぱり支援員さんとかそういう人を増やしてほしいと言いながら、そっちに予算欲しい
なあとか。

でも、もちろん給食センターはアレルギーのことで、町長さっき越してくる人はいないと言
ったけれども、おじいちゃんおばあちゃんの家があってそっちに住みたいんだけど、本当
は大口に住みたいんだけど、やっぱりうちの子すごくアレルギーがあるから、そのまま扶
桑のアパートにいるねという話を前にも聞いたことがあって、大口に越したい人は結構いるん
だけども、給食が困ったんだよねという話があるので、給食センターは本当にきれいにして
もらって、アレルギー対応は絶対に必要だなと。

○鈴木町長　おい丹羽君、何とかならんのか。

ただ、そういういろんなことも今後やっていくということが一つの目的としてはあり得るか
なあというのはあるんで、今後いろんな意味で、そういうことも考えながらやっていかなけれ

ばならないということはよう分かっていますんで、そこら辺のところだけに対応は、今の御意見は御意見として聞いておきます。

今日来た意見をどうするこうするということはできませんので、現実には。ただ、だって正直なこと言っ、僕も伊達市見に行ったわけじゃないんで、どういうふうになっているか全く分かっていないんですよ。本当は来週辺り、行ってこようかなあとかと思っではいるんですけど、現実には。ただ、見てこないと百聞は一見にしかずで分かんないという、自分の夢を膨らませるのにどう対応していくのかということだけは、細かいという言い方はしたら怒られるかもしれませんが、僕らにアレルギーがどうだと言われてもあまり分からん部分あるじゃないですか。やっぱりそういう、本当に一つ一つの細かい部分を分析しながら造っていかないといかんというところがありますんで、そこらは今後皆さんから出た意見やいろんな人たちから聞く意見を求めて造っていかうかなというふうには思っていますんで。

という意味で、学校給食の一つの分類の中でどういうふうを考えていくかという。これは、学校給食センター所長だけでは絶対になし得るものでもないですし、生涯教育部長でなし得るものでもなくて、その分野分野でやっぱりお互いに出、いろんな人たちが話し合っやっていく分野であるということだけは、皆さんが思っおいていただければいいのかなというふうに思っおります。

あと、丹羽君あるね。

○丹羽教育委員 この間、給食センターを見学させてもらったんです。そこで感じたのは、すごく今、皆さん忙しく働かれているなというのが第一印象だったんです。

聞くと人手不足だということで、先ほどから出ていた予算なんですけど、予算がどこまでかけられるかというところは、私はちょっと正直分からないんですけども、どうせ次新しくしていくのであれば、機械というもので人手をカバーするというようなところをやっていかないと、やっぱり今後、どうしても人手不足というのはもうはっきりと目に見えて問題として出てくるというのは分かっているんで、そういったことへの対応もしていくといいのかなと思っいます。

あと、先ほどのキッチンカーではないんですけども、私キッチンカー造りました。やっています、串カツやっています。

やっぱりそれはなぜやり出したかというのは、今町長が言われたような考えと全く同じような感じなんですけど、まず会社として災害に強い会社をつくろうということを思っ、何か事が起きたときに、まずは会社として従業員を守れるようにということで、一番初めは発電機からだったんですね。停電が起こったことがあって、1時間以上停電をしたことがあったんです。そのときにお客さん、昼間だったんですけど、蒸し暑い6月か7月だったと思うんですけど、

蒸し暑い中で1時間、1時間半、何も扇風機も使えない、エアコンも使えないというような状況が続いたので、これはいけないと思って発電機をまず投入して、それが活躍したのが三、四年後だったんですけれども、やっぱりあってよかったなあというところを感じたときに、改めて何か起こったときに、食事ですね、衣食住というのが大切だと言われている中の食の余裕部分をどうしたらできるんだろうかというところで、じゃあキッチンカーがあれば、もしかしたら何か事が起きたときにできるんじゃないかというところでキッチンカーを造ったんです。

ただ、やっぱりキッチンカー造っただけではなくて、自分たちでも作って提供していこうということをやっていくとともに、先ほど言われたように、逆に言ったらキッチンカーやってみたいなという人にも車を貸し出して体験してもらって、ああいいな、やってみたいなというふうだったらじゃあ造りますよという、仕事につなげる話じゃないんですけど、そういったことをやっていきたいなあということでやり始めています。

今回、給食センターも災害に強いということを目的として造りたいということだったので、やっぱり当然発電機等も備えると思うんですけれども、先ほど言っていた御桜乃里とか、そういった老人施設のところで提供ができなくなったときというのは、やっぱり日頃から、例えばキッチンカーと連携を取っていれば、食材だけお渡してキッチンカーが出動して、その場で作るということも私の中では可能かなあと思っているので、ふだんからそういった、さっきのにぎわいの創出じゃないですけど、そういったことを連携していくと、そういったもしものときに有効な手段として、一つ食の提供という場所がどんどん増えていくんじゃないかなと思っていますので、そういったこともやっていっていただけるとうれしいなと思っています。

○鈴木町長 ありがとうございます。

舟橋君、何かありますか。

○舟橋教育委員 私も先日、給食センターのほうを見せていただいて、人が少ないのか走り回っている姿を見て、もっと自動化できればミスもなくなるでしょうし、効率もよくなるんじゃないかなということをすごく感じましたし、エアコンがないんですしたかね。上が開いていて、作業環境もあまりよくないような気がしたので、こういったほかの災害に強い機能であったりとか、食の安全というのも当然あるんですが、働いている人たちも本当に新しい設備のほう働きやすいんじゃないかなとすごく感じましたし、私の父親も高年齢ですけど、御桜から弁当を取ったりするときがあるんですけれども、結構スーパーとか行くと年配の方が安くなった食材を選んで買っていたりとかしていると、やっぱり少しでも栄養のあるもので安いものを提供できるところがあるのであれば、お互いメリットがあるんじゃないかなというのはすごく感じたので、学校給食のみならずほかにも使える施設であれば、それは素晴らしいんじゃないかなと思いました。

○鈴木町長 教育長、何かありますか。

○長屋教育長 町長にいっぱいしゃべられたもんだから。

○鈴木町長 ほかに、職員で誰かありますか。

よろしかったですか。

○佐藤総務部長 代表してしゃべらせていただきます。

町長からは本当に夢のある話をいただきまして、もう我々職員としても夢が広がるというか、大変楽しみな給食センター一体設備というか施設というか、そういうものがあるなあというのは大変面白いなあという気はしておりますけれども、一方で、これから子どもさんが少なくなっていくだろうということも当然懸念されるわけですし、町長は1万食ぐらいというふうに言われたけど、逆に言うと、ちょっとこの町については過剰ではないかなあという部分もひょっとしたら出てくるのではないかなあ。

40年後を見越したときに、本当にそこまでの設備がいるのかというところと、ちょうど間を取るようなところで、どこかで落としどころをつくりながら、町長いっぱい夢を入れられた中でも取捨選択をしながら、これはやめましょうよという部分も出てくるかもしれませんが、それは皆さんで話し合ってくださいながら、本当に40年後までそれが必要なかどうかというものを見極めてやる必要があると思いますし、例えば災害というところで行くと、どこまで行ってもその心配は尽きないわけですし、どこまでも準備してもそれはやっぱり際限がないわけです。それをどこで折り合いをつけるかというところが一番大事なところになるのかなあというの思います。

財政的な意味も、先ほどお話が出ましたが、潤沢に次から次へと湧いてくるものではないもんですから、ある中を将来的にも残しながらやっていくために何が一番いいかというところを皆さんでお話ししながら、ここでいきましょうよという妥協点というか、それが将来にとっても責任を持てる範囲内、それをつくっていくのが役場の職員の仕事でもありますし、皆さんからいただいた意見を練り上げていく上でも大事ななあという気はしております。

少し町長のお話に水を差すようなことになってしまったかもしれませんが、一方でそれは大事なことだなあという気もしておりますので、その辺りは皆さんと相談しながらというか、町の行く末のことを考えていければいいなあというふうには思っております。

○鈴木町長 ありがとうございます。

時間もそろそろということでもありますんで、まとめに入らせていただきますが、今の水を差すだとかこれでどうだとかという話じゃなく、やっぱりこういう場というのは、みんなが意見を言い合ってやっていかないとなかなか前には進んでいかないということでもありますんで、次回こういう会議を開くときになりましたら、また事前に、例えば給食センターの件というよう

な話をさせていただいた中で、また皆さん方が思ってみえることとお話ししていただける場をつくっていききたいな。

また、もっと言いますと、いろんな課ともいろんなものが連携をしていくということでありますので、そういう意味で、今後はもう少し準備も、事務局側としてはそういう準備もしながら、皆さんとも、そしてまたほかのいろんな方たちとも話をしていかなければいけないなあ。

もっと言うと、先ほど言いました学校給食だけではということになれば、先ほど御桜乃里だとかそういう老人施設という話はしましたが、逆に言うなら職員の給食ということも、職員の学食じゃないですけども、お昼の昼飯だとか、いわゆるほかの会社の人たちもそこに来てもらってもいいしとか、いろんなことも出てくる。いろんな方向はこれからあると思いますので、本当に遠慮なく言っていただいて、それはどうだということのまとめだけはこっちでさせて、できないものはできないということをはっきり申し上げていかなきゃいかな部分がありますので、もちろんさっき佐藤が言いましたように財政の問題だとかいろんな問題もありますので、そこらを鑑みながらやらせていただきたいなというふうに思っています。

ただ、みんなが100%ええなというんじゃないなくても、80%、50%、50%はちょっと少ないかもしれませんが、70、80ぐらいはこれでいいんじゃないのかというある程度満足できるもの、それと長年の人口増加、人口の減少等に踏まえた中での建物の大きさ、そしてまた一番怖いのはいつ地震があるか分からない。今、本当に南海トラフの話もされている中でのいろんなものをやっぱり想定したもの。我々が生きている間に本当に地震が起こるか起こらんか分かりません。起こらないか起こるかは分からないから、余計にそういうものに対する準備は整えていく必要があるということでありますので、ぜひその辺でもつつがない御意見をこれからいただきますことを心からお願いを申し上げ、私の司会はこれで終わらせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

○鈴木町長 ありがとうございます。

じゃあ、これで私の発言は終わらせていただきます。

あと締めのほうよろしくお願いします。

5. その他

○岩田政策推進課長 皆様、ありがとうございました。

それでは、その他のほうですけども、皆さんのほうから何かありますでしょうか。

よろしいですか。

特に事務局もいいですか。

(挙手する者なし)

6. 閉会

○岩田政策推進課長 それでは、以上をもちまして令和5年度第1回大口町総合教育会議を閉会とさせていただきます。委員の皆様には、長時間にわたりありがとうございました。

(午後 3時00分)